

平成30年度 国語科

教科	国語科	科目	国語総合	単位数	1	年次	2
使用教科書	「改訂版 高等学校 国語総合」(数研出版)						
副教材等	「カラー版新国語便覧」(第一学習社)「意味から学ぶ常用漢字」(第一学習社)						

1 担当者からのメッセージ

「古典」は、私たちの文化のルーツであり、現代の日本を生きている私たちの内面にも深く関わっています。千年以上前の日本人が、どのようなことを考え、どのような人生を歩んできたのかを知ることは、人間の「普遍性」を理解することであり、自分自身を理解することに繋がるのです。グローバル化が加速し、異文化理解の必要性が求められる時代ですが、まずは自分を理解しなければ、異文化を持つ人たちとの関わり方を考えることができないでしょう。

また、時代を超えて伝承してきた文化は、私たちのかけがえのない財産です。千年前に書かれた書物をそのまま読み、理解できる環境にあるのは、世界的にも珍しいことです。この財産をしっかり受け取り、後代に伝えることは、私たちの仕事です。

「古典」の学習は、この財産を楽しむための「アイテム」を手に入れる、喜びに満ちたものです。有意義な時間となるよう、積極的な姿勢で取り組んでください。

2 学習の到達目標

- ・古語で書かれた古文や漢文を読み、描かれた世界を楽しむことができる。
- ・古典についての理解を深めることによって、ものの見方を広め、感じ方や考え方の幅を広くし、人生を豊かに生きる態度が身についている。
- ・古典に関連する文章を読むことによって我が国の伝統と文化に対する理解を深め、生涯にわたって古典に親しみ、古典に学ぶ態度が身についている。

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲 ・態度	b:話す・聞く能力	c:書く能力	d:読む能力	e:知識・理解
観点の趣旨	古典の学習に興味を持ち、古典の世界についての理解を深めようとする。古典を読む楽しさを味わうとともに、我が国の伝統と文化に対する関心を深めている。	教授者や仲間の発言を的確に聞き取り、それに応じて自分の考えを深め、まとめながら、効果的に話したり話したりする。	自分の考えをしっかりとまとめ、相手や目的など場に応じた適切な表現による文章を書くことができる。	古典の知識をふまえて文章を的確に読み取り、その価値を考察したり、関心に応じて更に幅広い読書につなげたりして、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化や言葉の特徴、きまりなどの理解を進め、知識を身に付けている。
主たる評価方法	授業の受け方 ノート・提出物等の記述の点検	授業の受け方 発表等の発言の内容の点検	ノート・提出物等の記述の内容の点検 定期考査	授業中の発表、ノート・提出物等の記述の内容の点検 定期考査	授業中の発言、ノート・提出物等の記述の内容の点検 定期考査 小テスト

上に示した観点に基づいて、学習單元ごと・学期ごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。評価は学習内容に応じて、それぞれの観点毎に適切な割合を案分して行います。

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点					単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d	e		
1学期	伊勢物語	教材: 『伊勢物語』 「芥川」 「東下り」 文法等…文語の動詞の活用	○	○	○	◎	○	a:物語の世界に興味を持ち、読み取ろうとしている。動詞の活用について発展的に学ぼうとしている。 b:文章の構成上の工夫について話し合う。 c:作品づくりに積極的に取り組んでいる。 d:人物の心情を深く理解することができる。 e:語句や歴史的仮名遣いなどに注意して、正確に音読し、意味を把握している。動詞の活用の意味と用法を理解している。	a、b、c、d: 授業の受け方と提出物の点検 定期考査 e:小テスト及び定期考査
1学期	漢文	教材: 「狐借虎威」 「鶏口牛後」 (故事成語の意味を理解し、日本の文化が影響を受けていることに気づく)	○		○	◎	○	a:古代の中国と日本の関係について理解する。漢文が日本語や日本文化・思想に与えた影響について考察する。 C:漢文のルールに則り、作品を作る。 d:漢文の基本的な構造を理解し、正確に訓読できる。 e:漢文の基本的な構造について理解する。漢文訓読に関する基本的な知識について理解する。	a、c、d、e: 授業の受け方と提出物の点検 定期考査
2学期	平家物語	教材: 「祇園精舎」 「木曾の最期」 (戦国の時代に生きた人々について理解する)	○	○		◎	○	a:人物、情景、心情などの対比的な描き方に気づき、その効果について考える。 b:意見交換の中で人物への理解を深める。 d 人々の心情と言動、交情、について読み取り、それを表現できる。 e:文語の決まり(音便・敬語)を理解している。古語について理解している。	a、c、d: 授業の受け方と提出物の点検 定期考査 e:小テスト及び定期考査

	徒然草	教材: 「つれづれなるままに」 「ある人、弓射ることを習ふに」 (の時代に生きた人々について理解する)	○	○	◎	○	a:文章の構成や展開に注意しながら、筆者の意図を読み取ろうとしている。 b:現代人の考えとの共通点について話し合う。 d:筆者がなぜこの文章を、このように書いたのかなどに迫っている。 e:語句や歴史的仮名遣いなどに注意して、正確に音読し、意味を把握している。動詞や助動詞の活用の意味と用法を理解している。	a、b、d: 授業の受け方と提出物の点検 定期考査 e:小テスト及び定期考査
3 学期	源氏物語	教材: 「光源氏の誕生」 「若紫」 (物語の世界に親しみ、文章を味わう。登場人物の心情や行動について考える) 文法等…文語の形容詞・形容動詞の活用	○		◎	○	a:登場人物の相互の関係と、人々の心情と言動を積極的に読み取ろうとしている。 d:踏まえられた故事を理解した上で、登場人物の相互の関係、人々の心情と言動、交情、について読み取り、それを表現できる。 e:文章の形態や文体の特色、古語について理解している。形容詞・形容動詞の活用を理解している。	a、d: 授業の受け方と提出物の点検 定期考査 e:小テスト及び定期考査
	漢詩	教材: 「唐詩」 (漢詩を読み、簡潔で含蓄のある表現を味わい、豊かな詩情や明確な主張を読み取る)	○		◎	○	a、d:各詩人の生きた時代に関心を持ち、語彙や句法に注意しながら訓読し、それぞれの詩がどのようなことや心情を表現しているかを読み取り、味わい、自己の表現力の向上に役立っている。 e:漢詩文に独特の語彙、および、句法・詩形・押韻等を確認しつつ訓読し、現代語訳している。	a、d、e: 授業の受け方と提出物の点検 定期考査

※ 表中の観点について a:関心・意欲・態度 b:話す・聞く能力 c:書く能力 d:読む能力
e:知識・理解

※ 評価の観点のうち「関心・意欲・態度」と「知識・理解」については、すべての単元に位置付けて○印を、また、その単元で主として扱う国語の領域（「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」）に関わる観点には◎を付している。